10	229.75	213.00	10	323.70	305.50	10	428.00	363.00
11	235.00	217.80	11	336.00	316.60	11	415.40	382.00
12	217.80	208.50	12	342.70	326.50	12	413.70	394.80
1919 1	213.00	205.00	1923 1	336.30	323.60	1927 1	404.50	354.00
2	227.60	212.50	2	335.20	314.50	2	387.80	356.00
3	232.00	221.70	3	320.70	304.60	3	409.60	381.00
4	226.50	213.30	4	322.80	306.70	4	389.60	366.40
5	214.50	202.70	5	324.80	312.50	5	378.80	349.70
6	207.00	200.60	6	338.90	324.20	6	372.90	351.20
7	206.20	198.40	7	345.70	331.70	7	373.90	360.00
8	198.00	187.00	8	343.50	337.60	8	391.70	371.00
9	191.50	178.00	9	341.40	320.80	9	387.40	362.70
10	179.75	166.00	10	341.40	331.70	10	374.40	361.20
11	175.00	138.50	11	340.70	324.80	11	363.70	340.90
12	170.50	144.50	12	330.90	316.70	12	363.40	347.80
1920 1	169.00	154.00	1924 1	320.90	305.60	1928 1	370.40	356.40
2	170.00	153.00	2	318.10	306.40	2	370.30	361.40
3	168.50	153.00	3	312.00	287.50	3	374.80	362.30
4	191.50	159.75	4	298.20	266.30	4	373.20	358.40
5	220.00	197.00	5	284.30	267.40	5	362.00	319.50
6	262.50	214.00	6	288.70	271.70	6	355.20	335.50
7	243.00	226.00	7	289.50	273.80	7	352.30	332.80
8	229.50	209 50	8	278.30	266.10	8	346.10	332.70
9	231.20	222.25	9	270.20	251.60	9	360.20	344.20
10	262.20	230.50	10	254.70	231.00	10	365.00	346.00
11	300.00	253.40	11	252.00	242.50	11	361.70	350.50
12	333.00	294.80	12	261.60	245.10	12	359.30	350.20
1921 1	358.00	290.40	1925 1	257.70	246.80	1929 1	357.90	348.50
2	373.50	333.00	2	264.50	248.90	2	362.30	353.70
3	409.20	357.20	3	285.50	260.80	3	356.00	346.70
4	378.00	342.90	4	287.90	273.20	4	369.00	352.60
5	378.00	337.90	5	282.00	267.00	5	371.80	361.30
6	362.00	347.00	6	258.60	251.40	6	377.60	368.10
7	352.50	337.80	7	265 50	255.80	7	394.90	377.00
8	354 30	342.30	8	264.00	246.70	8	401.70	391.90
9	346.30	287.80	9	260.90	247.40	9	426.00	396.60
10	317.20	283.40	10	264.40	253.70	10	427.40	417.40
11	328.00	305.30	11	282.70	264.70	11	435.00	423.00
12	325.40	311.80	12	287.10	273.90	12	458.70	427.60

註 （1）1920年以前ハ上海日本商業會議所年報（2）1923年以前ハ中國股份檢查書
（3）爾後銀行週報經濟統計ニヨル

附

錄

附錄　B、銀價暴落と滿洲財界への影響

本文は昭和四年下半期より昭和五年上半期に至る一年間に亘る銀價の未曾有の暴落の大略と之が滿洲財界に及ぼせる影響の要點を成るべく簡單に計數的に又早急に取纏め以て將來の參考に資したいといふ主旨にて記述したものである。所要日數一週間擔當者南鄕龍晉、齋藤征生、安盛松之助の參名、勿論一週間全時間を本文の爲めに割いた譯で無い。

昭和五年八月二十三日

總務部調査課商事係

目　次

一、最近に於ける銀價暴落の經過と其原因
二、銀價暴落の滿洲財界に及ぼせる影響
三、結　言

一、最近に於ける銀價暴落の經過と其原因

一九二九年後半以降在荷の激增と需要の減退とに落潮を辿りつゝあつた銀相場は一九三〇年に入るや底知れぬ弱調を示し二月一日倫敦銀塊先物は遂に二十片の大關門を割つて十九片八分の七に急落し同月五日には現物も亦十九片十六分十五に慘落し、爾後六月二十五日現物十五片十六分七、先物十五片四分の一と云ふ相場を示現するまで恂に無人の境を行くが如き慘落を演じたのであつた。この間大連銀相場も同樣の慘落を演じ、一月の現物相場は七十圓二十五錢を安値とし二月末には六十八圓五十錢に崩れ、五月には遂に六十圓の大關門を割つて五十七圓八十錢となり、六月三日には現物五十圓八十錢先物（六月十三日限）五十圓六十錢と云ふ記錄を殘して居る。一方上海の標金相場は一月中は四百九十六兩五匁を高値とし二月には五百兩臺を出現し爾後連月暴騰して六月には六百二十二兩二匁迄躍進した尤も標金相場は最近國民政府の金輸出禁止に禍されて國際的評價を失墜したから五月十六日以降の相場は實際の金銀の比價を覗ふに足らぬ憾みがある。

一九三〇年の上半年に於て銀價は、二月末から三月初旬に至る期間と、五月後半期から六月に至る期間とを夫々一階梯として暴落の跡を止めて居る。これは印度の銀に對する輸入課稅と支那國民政府の金塊輸出禁止とに基くこと勿論である。即ち印度政府が銀塊一オンスに對し四アンナ（一留比は十六アンナ）の輸入稅を發表したのは二月二十八日であり、又國民政府が金塊の輸出禁止令を發したのは五月十五日である事實に想到する時は、銀相場の慘落との間に至大の因果關係を有することが瞭かであらう。

右は銀價の崩落中に起つた特別の二現象であるが銀價大勢安の直接動機をなすものは實に印度政府の保有銀處分と云ふ不斷の脅威に對し世界の銀市場が常に危惧の念を以て迎へつゝあることに存する。

一九二六年八月印度幣制調査委員會の作成した幣制改革案に對し印度議會は印英爲替の Ratio 一志六片を通過したのみで中央準備銀行法案を否決することに依つて、金塊本位制の採用を葬り去つたのであるけれども、一方印度政府は現在の法制の許す範圍内に於て委員會の提案に從つて極力金準備の充實に努めつゝあるものゝ樣に見受けらるゝ。殊に銀準備縮少政策の如きは一九二六年中にこれが採用を決定し翌一九二七年四月には法律的承認を得たのであつた。同年以降銀價の前途には縱令銀價の騰貴を助長すべき材料が潤澤に存在するも强材料は直ちに印度政府保有銀の賣出に依つて抑制されるであらうと云ふ不安が横つて居る。Handy & Harman の推定に據れば印度政府が拂下げた保有銀は一九二七年に於て九百二十萬オンス、一九二八年中に二千二百五十萬オンス、一九二九年中に三千五百萬オンスに達する見込みである。最近數ヶ年間に於ける印度政府の銀準備保有額を示せば次の如くである。

年　月　日	銀準備保有額
1926年7月31日	968,300,000留比
1927年10月31日	1,155,800,000
1928年6月	981,800,000

1928年9月27日　1,061,400,000

1928年12月15日　1,023,800,000

印度幣制調査委員會は報告發表當時の準備銀保有額を九億五千萬留比とし、これに留比銀貨買戻に關する政府又は準備銀行の負擔五億留比を加算せる額を十年計畫を以て縮少することゝし、第十一年目以降よりは二億五千萬留比に止めんことを提出したのであつた。即ち委員會の原案によれば紙幣發行準備中の銀保有高は準備銀行法實施の三年末迄に七億留比に、六年末迄に五億留比に、十年末迄に三億五千萬留比に、爾後二億五千萬留比に夫々減額する豫定であつたが、其後議會に於て各期間毎に二億五千萬留比宛增加することに修正された。尤も準備銀行法案は既に葬られたのであるから、印度政府がこの修正案に從つて規定通りの保有銀を處分しつゝあるわけではないが、これが銀價の前途に對して一大暗影を投ずるのは云ふまでもない。加ふるに一九二六年七月末二億二千三百萬留比に過ぎなかつた印度政府の金保有額は一九二八年十二月十五日には三億一千萬留比に激增して居る。玆に於てか印度の幣制改革は一面に於て不要銀の處分を促すと共に他方はさなきだに不足を告げつゝある金の爭奪を一層助長するであらうと云ふ二方面から貴金銀賤の風潮を將來長期間に亘つて繼續せしむるものと考へられる。殊に印度政府が印度を銀の使用から出來得る限り速に離脱せしめんと努めつゝある事實に想ひ到る時は一層其感を深くする。

最近に於ける銀價急落の原因としては印度の事情の外に佛領印度支那の金爲替本位制の採用、ペルシャの金本位制の採用竝に銀價の騰貴による銀採算費の低下等を擧げ得る。即ち佛領印度支那政廳は其保有準備銀處分の遷延より生ずる損失を免れんとして一九三〇年一月十四日突如 1 Piastre を 10 Franc に安定する旨を發表し、翌十五日印度支那銀行の代表者 Gannay 氏をして西貢に於ける內外各銀行を歷訪せしめ爾後同行は 10 Franc を中心とし其1%を上下する範圍內に於て爲替の賣買に應ずる旨を聲明するところがあつた。元來佛領印度支那の幣制は重量 416 grains に對し 9/10 の含有純分を有する Piastre を準備銀とし、印度支那銀行が發券銀行となり、一九二八年十二月末に於ける紙幣發行高 142,000,000 Piastre に對し準備銀は 48,000,000 Piastre と發表せられて居る。印度支那銀行が一九二九年五—六月から同年十二月までに賣却した銀は五千萬オンスに達する見込みであると稱せらるゝから、これが一九二九年後半に於ける銀價低落の一大材料となつたことは云ふまでもあるまい。

ペルシャは從來銀貨國であつたが銀相場の低落につれてクランを以て表される對英爲替の騰貴著しく（對英爲替は一磅に付何クランと建てられる）ために同國の內外通商が著しく阻碍さるゝとの理由を以て、一九三〇年三月廿一日より金本位制を採用するに決定した。新金單位を Reyal と稱し、1 Reyal は 0.3661191 gram の純金を含む規定である。從つて 20 Reyal＝1 Pahlavi は英貨約一磅に相當する。なほ舊銀貨一クランの重量は 71.065 grains 純分は90%弱で一九三〇年初に於ける Imperial Bank of Persia の紙幣流通額は 19,000,000 Tomans に對し 15,000,000 Tomans の準備銀を保有せる由である（一トーマンは十クランに等しい）。

次に銅塊相場は一九二八年九月から漸騰して一九三〇年には（銅塊一封度米貨建）二十仙を突破したが其後世界的不況の影響を受けて低落し始めたゝめ、米國の銅關係者は協力して十八仙と云ふ公定相場の維持に力めたのであつた

而して米銅の生産原價は一時度最低3.69仙より最高13.75仙であるから産銅業者は長期間に亘り非常なる利得を擧げたわけである。（昭和五年五月十八日正金週報第二十號より）從つて銅の副産物として産出さるゝ銀は殆ど原價と云ふものが無く買手さへあれば値段の如何を問はず賣り得たのであるが、一九三〇年に入り銅の市況も惡化し四月十五日には一時度の相場十四仙に崩れ、五月十六日には更に十二仙に低落し、Miami, Copper Range, Granby 等の米國の各銅山は由々しき脅威を感ずるに至つた。次に正金週報に掲載さるゝ米國各銅山の生産原價並に生産原價と生産數量との關係を示してみよう。

（1）生産原價（1ポンドに付米貨仙）

銅山名	Cent
Cerro de Pasco	3.69
Utah	7.29
Mohawk	8.35
Chile	8.51
New Carnelia	9.30
Andes	9.69
Culmet and Hecia	10.67
Noranda	11.00
Phelps Dodge	11.57
Miami	12.04
Copper Range	13.10
Granby	13.75

（2）生産量と生産原價との關係

生産原價	生産量100分比（%）
8 Cent 以下	28.9
8 Cent －9 Cent	17.6
9 Cent －10 Cent	25.5
10 Cent －11 Cent	5.7
11 Cent －12 Cent	15.4
12 Cent 以上	6.8

銀が副産物として生産される主要金屬中では銅が最も重きをなして居ることは周知の事實である。從つて銅の生産原價並に産出量の多寡は直ちに銀の生産額に甚大なる影響を及ぼすのである。米國鑛山局の著した Mineral resources

は一九二七年度に於ける米國の銀總生産額を約五千九百六十三萬オンスと見積り、これを生産鑛山別に夫々次の如く分類して居る。

乾燥硅土鑛	11,780,000, ounce (1.000fine)
鉛　鑛	15,760,000,000
銅　鑛	14,560,000,000
錫鉛鑛	13,620,000
銅及銅鉛錫鑛	2,170,000
錫　鑛	1,690,000
其他	50,000
合計	59,630,000

鑛山が其收益の大部分を銀の生産より得て居る場合は其鑛山は純粹の銀鑛山と稱せられる。この意味に於ける銀山は墨西哥が多く、其他北米にも散在して居るが、生産原價の最も安いと稱されて居るのはSunshine Mine, Idahoで同銀山の生産原價は1 ounce に付 20 Cent の云ふことであるが多數のものは 40 Cent 内外にして或は夫れ以上のものもあるらしい（正金週報より）この最低生産費 20 Ceut の大連銀相場の Parity を知るため漢口相場を75兩米日爲替相場を $49\frac{7}{16}$ 弗として計算すれば（一九三〇年八月十六日現在の相場）

$$110.079 \times \frac{20 \times 75}{49\frac{7}{16}} = 33.40$$

即ち三十三圓四十錢となり一般純粹の銀山の生産原價は其二倍なる四十仙大連銀換算六十六一七圓にあることを物語つて居る。

次に Handy & Harman の調査に係る世界に於ける銀の需給狀態並に一九三〇年上半年の銀相場並に標金相場を掲げてみよう。

（1）銀の供給狀態

A. 1920年以降の世界銀産額（單位1,000,000 ounce 1.000 fine）

年次＼産出國別	合衆國	墨西哥	加奈陀	秘露	濠洲	世界總生産額
1920	55.4	66.7	12.8	9.2	2.7	173.3
1921	53.1	64.5	13.1	10.0	5.4	171.3
1922	56.2	81.1	18.6	13.2	11.5	209.8
1923	73.3	90.9	17.8	18.7	13.8	246.0
1924	65.4	91.5	19.7	18.7	10.8	239.5
1925	66.2	92.9	20.2	19.9	10.8	245.2

1926	62.7	98.3	22.4	21.5	11.2	253.8
1927	60.4	104.6	22.7	18.3	10.3	254.0
1928	58.4	108.5	21.9	21.6	10.3	257.3
1929	61.0	105.0	—	—	—	256.5

B. 其 他 供 給 (1,000,000 ounce 1,000 fine)

年　次	英國銀貨の改惡	歐洲銀貨の廢止	印度政府の拂下	合　計
1920	—	18 0	—	18.0
1921	—	31.0	—	31.0
1922	24.0	19.0	—	43.0
1923	25.0	20.0	—	45.0
1924	2.0	18.0	—	20.0
1925	7.0	—	—	7.0
1926	0.7	—	—	0.7
1927	1.2	8.0	9.2	18.4
1928	5.5	32.0	22.5	60.0
1929	10.0	10.0	35.0	55.0

(2) 世界の銀消費額 (1,000,000 ounce 1,000 fine)

摘要＼年次		1924	1925	1926	1927	1928	1929
印　度		108.2	106.7	91.6	90.0	89.0	81.8
支　那		41.7	59.4	73.9	85.0	124.0	136.7
獨　逸		—	14.3	12.5	16.7	10.8	12.0
工藝及工業	亞米利加及加奈陀	28.0	31.0	—	33.5	33.5	37.0
	英　國	4.5	5.0	6.0	6.6	6.0	6.5
鑄貨	合衆國	4.4	17 0	6.7	6.5	4.1	2.5
	波　蘭	—	—	—	—	6.5	—
	露西亞	—	—	—	—	1.6	3.5
	和　蘭	—	—	—	—	1.4	3.0
	香　港	—	—	—	—	—	16.0

墨西哥	11.3	3.3	4.1	—	—	—	—	—	—	—	—
露國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
消費額合計	11.0	15.4	26.0	31.4	31.5	12.5	—	—	—	—	—
	259.1	252.1	254.3	269.6	308.4	311.5	—	—	—	—	—

（3）1930年自1月至7月銀價並標金相場

年月	倫敦銀塊現物相場 最高	倫敦銀塊現物相場 最低	大連銀現物相場 最高	大連銀現物相場 最低	標金相場（定期） 最高	標金相場（定期） 最低
1	21 5/8 ペンス	20 ペンス	76.20 円	70.20 円	496.50 圓	452.50 圓
2	20 13/16	19 1/16	72.15	68.50	507.00	477.80
3	20	18 5/8	71.35	66.85	519.50	481.30
4	19 13/16	19 3/16	70.00	68.70	506.50	496.50
5	19 9/16	17 7/16	69.60	57.80	544.90	503.60
6	17 7/16	15 7/16	59.30	50.80	622.20	547.50
7	16 7/16	15 9/16	58.35	53.65	616.00	545.10

二、銀價暴落の滿洲財界に及ぼせる影響

以上の如く未曾有の銀價大暴落が滿洲財界の各方面に如何なる影響を與へたか、以下項目を分つて之が概況を試みる。

一、錢鈔取引

銀價暴落に依つて最も好影響を受けたるものは蓋し大連錢鈔市場である。日々の變動に依る思惑と鞘取りは毎日記錄的出來高を示し、本年上半期の出來高計は開所以來の最高記錄たりし前期の十億二千三百餘萬圓を遙かに突破したるを前年上半期と比較すれば左の如く二倍半に達してゐる。（先物）（大連商工月報の數字に據る）

本年上半期　一、二九二、三九〇、〇〇〇圓　　前年同期　五〇〇、七〇〇、〇〇〇圓

二、特産取引

銀暴落の結果、銀建を採用する特産の價額が相對的に騰貴を見せる事は言ふまでもないが、一面銀價の變動に伴ふ投機に依つて特産物の取引高は各所共に增加を示した。今本年上半期の出來高を前年同期に比較すれば左の如くである。（先物、大連商工月報の數字に據る）

	本年上半期	前年同期
大豆	五一、一一五車	二六、七八六車

高粱	二八、一二三車	二〇、四五七車	
豆粕	一五、八九五千枚	一三、四五七千枚	
豆油	一七、二〇九百函	一五、一六〇百函	

三、輸出貿易

輸出貿易に對しては相對的價額下落率丈け輸出を增進せしめ好影響を與へてゐる先づ大連の本年上半期全輸出額を前年の夫に比すれば左表の如く千七百萬兩內外の增進を示してゐる。（關東州貿易月報の數字に據り本年度の圓單位は附表の換算表に依つて兩單位に換算す）

	本年上半期	前年同期
	一四一、二二九、六七六兩	一二四、四六五、二四六兩

次に主要輸出品個々に就いて見るに（前揭月報に據る）（單位擔）

	本年上半期	前年同期
黃大豆	九、五〇二、〇〇五	一五、四八八、五九五
高粱	八三五、七八二	一、六八九、三九五
豆油	一、一三三、二九一	九六〇、五九〇
豆粕	八、六六〇、五六八	七、三一三、二三五

即ち豆粕及豆油は增加し、大豆及高粱は減少を見てゐるが、大豆の減少は歐洲筋の買氣薄と、南支向けを採算の關係上營口を經て積出したる事に依り、高粱の減少は山東筋の購買力減少に依るものである。

更に營口に於ける重要輸出品を見るに（營口商業會議所報に依る。單位擔）

	本年上半期	前年同期
大豆	一、一八二、七四八	五四三、七七二
高粱	二六七、四三六	三〇〇、八四〇
豆粕	一、〇〇八、九〇五	一、七六七、〇九五
豆油	一一、三九七	二四、一四〇

即ち前述の原因に依り大豆は激增を見てゐるが、其他は減少してゐる。之一般工業界不振の結果と思はれる。

最後に安東に於ける主要輸出品を見るに（安東經濟時報に依る。單位擔）

	本年上半期	前年同期
粟	二、九二〇、二三六	二、二九三、四八四
黃豆	二〇四、一〇六	一一八、八九六
高粱	一四七、七〇八	一二二、七八四
柞蠶絲	一〇、九八八	一九、九九四

豆粕	一、七〇一、七九九	一、七三四、五四五	
豆油	七、九六〇	一三、五二八	

即ち原料其儘のものに於ては各れも增加を示し、製品に於ては工業界の不振を受けたる結果減少を見せてゐる。

四、輸入貿易

輸出貿易が幾分でも好影響を受けたるに反比例して輸入貿易は夫丈惡影響を受けた。即ち貨幣價値の下落とそれより受ける購買力の減退に依るものである。

先づ大連に於ける本年上半期の輸入金額を前年の夫に比するに左の如く約四百萬兩の減少である。（關東州貿易月報に依り圓は兩に換算す）

	本年上半期	前年同期
	九五、四二四、一六〇	九九、五一六、〇九五

次に之を主要輸入品に就いて見るに左の如く各れも減退を示してゐる。（關東州貿易月報に依り本年度分は月別に兩に換算し之を合計す）

	本年上半期	前年同期
麥粉（袋）	二、二六五、六六八	四、四五六、八五五
綿布（兩）	九、七三五、四二五	一一、六四四、三七四
棉花及綿絲（兩）	四、九三八、九七六	六、六九〇、〇六〇

更に營口に於ける主要輸入品を見るに（營口商業會議所報に據る）

	本年上半期	前年同期
綿絲（擔）		
（支那絲）	四〇、六九六	一九、三一八
（日本絲）	一、三八三	二、六一八
麥粉（兩）		
（支那粉）	一〇一、一一四	一五、九五九
（外國粉）	一七五、九二三	二四四、一八二

即ち外國品に於ては激減し、之に反し支那品に於ては激增を見てゐる。之支那の工業が銀安の結果一面に於て惡影響を受け乍ら、外國品との競爭上には好條件に惠まれ漸次之を驅逐せんとするの一現象と見得るであらう。

最後に安東に於ける主要輸入品を見るに（安東經濟時報に據る）

	本年上半期	前年同期
綿布（疋）		
（外國品）	一、〇七九、六六三	一、六五三、七一六

（大尺布　四〇、六六五擔）　（大尺布　四五、四五三擔）
（支那品）　六一、九一九　五二、九八〇
（土布　一〇、二〇三擔）　（土布　六、三五二擔）

綿絲（擔）　一四、四〇九　一六、〇一三
（外國品）　（支那品）　五、六二〇　四、二三〇

燐寸（羅）
（外國品）　四七、六八三　六九、五八四

即ち外國品に於ては一般に減少し、支那品に於ては營口同樣增加を見てゐるのである。

五、海運界

銀安の海運界に及ぼす影響は、購買力の減退、從つて起こる貿易の減少に依つて從來に於ても相當見られ得るが、其の顯著なる不振は世界的不況と結びついて寧ろ今後に現はれるものと思はれる。

先づ大連汽船々舶收入に依つて昨年同期と比較するに、

	本年上半期	前年同期
收入	五、七五八、一五八圓六	五、七四八、〇四六圓〇

期末所有及雇傭船噸數　一九〇、六一三噸　一七六、五七三

即ち數字の上に於ては約一萬圓の增收を見得るのであるが、前年同期は濟南事件、日貨排斥等に依つて收入の多からざる期であり、而かも期間中に使用せる船舶噸數は本年に於て增加を來し居る關係上、當然相當の收入增を見て然るべきであつたにも拘らず以上の如く僅かに一萬圓の增收に過ぎなかつた。

次に入港船舶數を比較するに（關東州統計月報及滿洲經濟統計月報に據る）

	本年上半期	前年同期
大連	二、〇八四（五、三六四、二三九噸）	二、二三一（五、五五六、三九九噸）
營口	四九四　（四五三、五一五）	四〇九　（三九二、二八七）
安東	六五　（三八、七七五）	三八　（二二、九五七）

註　安東は四月まで

即ち營口、安東に於ては入港船舶の增加を見てゐるが、夫は輸入貿易の場合に於けると同樣支那船舶の激增に依るものである。

更に運賃を比較するに（大連商工月報に據る）

	本年		前年	
	大豆（歐洲）	豆粕（阪神）	大豆（歐洲）	豆粕（阪神）
二月	一〇・〇	六・〇	二五・〇	九・五

四月	一四・〇	七・〇	二五・〇
六月	一一・〇	六・五	二〇・〇

一一・〇	二〇・〇	一一・〇	二〇・〇

即ち前年同期に比し著しき低落を見てゐるが、之一面に於て海運界の不況を物語るものであらう。

六、滿鐵運輸及鐵道收入

銀安が滿鐵の運輸及收入に與へたる影響は相當激甚である。本年一月より六月迄の成績を前年の夫に比較するに（統計月報に據る）

本年上半期		前年同期	
運輸（米噸）	鐵道收入（圓）	運輸	鐵道收入
九、三八六、四三一	五六、四一二、八三二	一〇、二〇三、二〇七	六一、五五二、三八七

即ち輸送に於て八十餘萬噸の減少、收入に於て五百萬圓の減少である。四月一日より八月二十一日迄の鐵道收入概算によれは乘車人員累計は前年同期に比し三七・二%減、同收入三二・七%減、貨物噸數一五・二%減、貨車收入一九・八%減を示してゐる。之れより判斷すれば乘客は近距離又は下等級乘客が特に減少し貨物は長距離輸送貨物が多く減少した事になるが兎に角銀價暴落は旅客收入の方に影響する事が深刻であることは明かな事實である。

七、滿鐵の石炭

鐵道に於けるこ同樣石炭に於ても滿鐵は重大な影響を受けた。先づ出炭高に就いて見るに（以下三表共統計月報に據る）

本年自一月至六月	前年同期
三、二二四八、三九四噸	三、一九九、一一一噸

即ち出炭高に於ては幾分の增加を示したが、夫は年初の計畫を其儘實行したるに依るものにして、後述する販賣高の減少は當初の七百五十萬噸計畫を一割減の六百八十五萬噸計畫に變更するの止む無きに立到らしめた。

然らば販賣高の成績如何こ言ふに、

本年自一月至六月	前年同期
三、九〇三、五六二噸（三七、二八四、一一九圓）	三、九六二、〇五三（四二、一六二、一五六）

即ち噸數に於て五萬八千、價額に於て四百八十萬圓の減少を示してゐる。噸數に比し價額の激減は昨年十二月一日以降五十錢乃至一圓六十錢の値下を爲したるに依る。以上は輸出、社用、社員炭全部を含む數字であるが、社員外地賣の數字に於ては更に減少は甚だしい。

本年自一月至六月	前年同期
九七六、三九八（一〇、三六三、三七八）	一、〇七五、二九二（一二、三二〇、九三一）

即ち炭價値下げにも拘らず噸數に於て十萬、價額に於て二百萬圓の減少を示してゐるのである。

銀安と共に金融業者は細心の注意を怠らなかつた爲、幾分か貸出しの引緊めを見たる他、金融界に左したる惡影響は及ぼさなかつた樣であるが、金銀の對比の上に注目すべき現像を齎した。

先づ大連手形交換高に現はれたる影響を見るに（大連商工月報に據る）

金勘定		銀勘定	
本年上	前年同	本年上	前年同
四八三、〇七〇、一八四圓	五四七、二九三、四一八	三五四、五四二、一五七	二六一、八一四、一八二

卽ち金に於ける減、銀に於ける增を表示してゐる。銀の增加は蓋し銀價下落の結果特產價額の膨張を來したること、從つて錢鈔市場への繫ぎの增加こと更に投機に依る取引增の結果にして、又一面に於て金勘定の減少こと共に諸物價價額表示の變化を意味するものこと思はれる。更に之の傾向は次に述ぶる全滿日本側銀行の特產資金貸付高に於ても看取し得るのである、（滿洲經濟統計月報の數字に據る）

金勘定		銀勘定	
本年自一月至五月	前年同期	本年自一月至五月	前年同期
二二八、〇八七、八八八圓	二七五、二〇六、四二六	八一、二〇二、四六七	五四、二五七、〇五七

九、日本小賣商

日本小賣商に對する影響は支那人の購買力減少の結果の範圍に止まるのであるが、之こても沿線に於ては二割乃至三割の賣上減少を來たしてゐるこ言はれてゐるが、大連に於ては左したる惡影響を蒙つてゐない。適確なる資料こ稱する事は出來ないが、試みに大連の公設五市場（信濃、山縣通、千代田、沙河口、小崗子）に於ける本年の一月より七月に至る賣上高を前年に比較するに左の如く僅かに十五萬圓の減少に止まる。（中日實業興信日報の數字に據る）

本年	前年
二、五六九、九一〇圓	二、七〇八、三一七圓

十、華商

銀安に依り最も惡影響を受けたるは言ふまでもなく華商である。今大連兩華商公議會の調査に掛かる大連に於ける七月末までの倒產者を擧ぐれば左の如く四十四戸に達してゐる。（滿日八月二十三日所載）

雜貨商一四　代理業五　質屋一　自動車營業二　飲食店三　靴店一　雜穀商二　黃酒製造二　野菜商二　錢莊二
古着屋一　呉服店三　藥店一　鐵工所二　肉商一　磁器商一　魚屋一

次に關東廳警務局調査に掛る昨年末より本年四月末に至る大連以外の華商倒產者及事業縮少者を見るに、左の如く一千餘軒に達してゐる。

旅順	一	魏子窩	一三	瓦房店	一八	大石橋	一五	營口	二七九
鞍山	四六	奉天	五〇〇	撫順	三〇	本溪湖	一三	鐵嶺	五〇
長春	五九	合計	一、〇二四						

而して今後更に仲秋、舊年關の節季を過ぐるならば、各所に於て莫大な倒産又は營業休止、縮少者を出すであらうと見られてゐる。

十一、工業方面

購買力減退に依る地賣の減少と、圓爲替の騰貴に依る南支、中支向輸出の不振に災されて、本年上半期の大連主要工業生産額は左の如く減少した。（前年度の數字大連經濟年史、本年度の數字大連新聞八月三日所載に依る）

本年上半期	前年同期
四四、八五〇、八八二圓	四八、二四一、七七九圓

次に電氣瓦斯方面に就いて見るに、電動力供給量、電燈、瓦斯消費量等は范家屯、開原等の一、二の土地を除けば大連又は全滿の平均に於て著しき增加を示してゐるが銀安に依つて其の增加率が幾分か低下せられたのは考へ得られる。數字の上に現はれて最も影響を受けたのは大連電車收入である。本年一月より七月末までを昨年の同期に比較すれば左の如く減少してゐる。（南滿電氣電鐵課調査）

本年	前年
六七七、八九七圓	七一〇、七八三圓

註　本年の收入中には六、七兩月中に賣上たる特別割引回數券代四九、九一〇圓を含む

以上は即ち銀安に依る支那人乘客の減少と、車馬賃低下に依り之を利用するもの多きに至りたる結果である。

十二、物價

銀安は金物價に對しては一般的落勢を幾分か促進せしむるに役立ち、銀物價に對しては言ふまでもなく騰勢を取らしむるに至つた。先づ大連卸賣物價の落勢を見れば左の如くである。（滿洲經濟統計月報に依る）

大連卸賣物價指數（金圓本位）

總平均 (56)	雜 (8)	燃料 (5)	建築材料 (13)	衣料品 (10)	肉類 (4)	調味及嗜好品 (8)
89.2	88.9	77.8	81.1	77.6	122.0	86.2
89.8	89.4	79.9	81.9	76.1	123.7	86.2
89.5	89.4	79.9	86.3	76.6	108.1	85.6
88.3	88.5	79.9	83.9	77.2	105.5	85.8
87.9	89.9	78.7	82.0	75.4	106.4	85.7
87.6	89.1	78.7	81.6	75.3	104.6	85.1
87.4	89.6	78.7	79.9	74.6	103.2	84.7
86.8	89.3	78.7	77.0	74.4	104.6	84.6
86.6	89.9	78.2	75.8	74.6	110.7	84.4
84.2	86.8	75.6	73.5	72.7	108.8	84.2
82.0	85.4	75.2	72.3	67.6	109.5	84.0
79.9	83.2	74.4	70.0	66.5	111.3	82.8
78.7	81.8	74.4	69.1	63.1	113.9	82.7
77.6	81.6	74.4	68.5	61.0	108.4	82.6
76.0	80.7	74.4	67.3	60.4	94.3	82.5
75.2	79.5	74.4	65.6	60.2	91.7	81.5
72.7	77.6	73	63.7	57.3	84.8	80.4
69.8	74.6	73	63.0	52.6	76.7	79.4

種別品數		穀類(8)
昭和四年	1	111.1
	2	113.0
	3	111.3
	4	108.2
	5	109.6
	6	111.0
	7	113.4
	8	114.4
	9	111.3
	10	106.3
	11	100.8
	12	94.0
昭和五年	1	92.1
	2	91.0
	3	90.0
	4	91.5
	5	87.6
	6	82.6

註　大正十、十一、十二の三ヶ年三十六ヶ月平均價額を百として計算せるもの

次に銀建物價の騰貴率を見る爲に大連中國人生活必要品小賣物價指數を擧ぐれば左の如くである。（滿蒙事情四月に依り之に增補す）

大連中國人生活必需品小賣物價指數（小洋銀本位）

副食物(6)	嗜好調味料(16)	衣服鞋類(8)	燃料(2)	納平均(45)
100	100	100	100	100
98	99	101	100	100
105	99	102	100	102
99	100	94	105	100
95	99	99	104	100
94	99	99	104	100
104	103	98	106	105
102	105	99	106	107
110	104	97	111	109
110	104	99	114	110
103	101	102	111	108
103	102	104	109	109
105	102	102	109	108
106	102	100	114	110
109	101	103	127	113
110	102	101	129	114
106	102	101	134	113
105	107	101	154	120

種別品數		主食物(7)
昭和四年	1	100
	2	101
	3	101
	4	104
	5	104
	6	104
	7	110
	8	115
	9	118
	10	119
	11	117
	12	117
昭和五年	1	115
	2	121
	3	126
	4	125
	5	126
	6	138

註　一、本指數は毎月上、中旬又は中、下旬の二回小崗子、浪速町、千代田町の三方面につき勞務課に於て調査したる價格を基礎とし三所の平均を更に毎月平均して算出せり
二、總平均は各種類別指數の平均に非ず各品總ての平均なり
三、指數算法は各品種に依り單位數量を考慮し總和算法に依れり

即ち銀物價の騰貴率は前年一月に對し、燃料の五割四分を最高とし主食物の三割八分之に次ぎ、總平均に於て約二割の騰貴であることを知る。

十三、關稅收入

本年一月以降七月末に至る大連海關の收入を前年同期に比較すれば左の如くである。（滿日及大連新聞に依る）

本年	前年
七、六〇一、一四七兩	七、二三三、三五〇兩

即ち一月以降の合計に於ては三十六七萬兩の增加であるが、之は一月金建實施の見越輸入多く前年同期に比し五十餘萬兩の增加を見たるに依るものにして、近來は漸減の步調を取りつゝある。即ち四月以降を月別に前年同月と比較

すれば左の如くである。

	本年	前年
四月	一、〇四〇、五七二兩	一、一二三、一六三兩
五月	一、〇三四、七七四	一、一一〇、四八〇
六月	八七二、一七八	八九八、七一五
七月	八〇五、〇六五	九六〇、六八七

而して此の傾向は今後尙激甚に現はれるものと見られてゐる。於是乎海關に於ては收入減退の對策として船舶仕役料の八割値上を實行せんとしてゐると傳へられる。

十四、華人勞働者

本年當初に於てはまだ銀に對する見極めも付かず、華工の勞銀に就いては銀拂に對する少幾の割增があつた外、金拂に對しては一般に變更を見なかつた。然るに最近に至つて銀も略落着きを見せるに至つた所から各所に於て賃銀の變更を見るに至つた。大體の標準とも見る可きは福昌華工が八月一日より華人社員に定して採用するに至つた柒にして、即ち金拂に對しては小洋相場が百八十圓になるまでを條件として二割方の引下げを行ふ事とし、銀拂に對しては左の割合に依つて割增金を支給する事となつた。

一、金對小洋が百四十圓より百五十五圓までの場合　一割增

一、金對小洋が百五十五圓より百七十五圓までの場合　二割增

一、同　百七十五圓以上　二割五分增

即現在に於ては二割五分の增給となつてゐる譯である。之に連れて土木建築協會其他に於ても金拂賃銀の値下げを爲す事となり、從來普通人夫一日日本金四十八錢平均を三十三錢に、特殊勞動者五十一錢を三十六錢見當即ち約三割方引下げて八月十六日より大連、鞍山、遼陽、奉天、旅順の五地に實施し、其の他の土地に於ても平均一割五分乃至二割を目標に賃銀低下を斷行した。（大連新聞八月二十二日所載）

以上に依つて銀安の華工に對する影響を見るに、銀下落率は昨年一月に比し四割內外であり、銀物價騰貴率は前述の如く總平均に於てこそ二割であるが、彼等の必要品に對しては一般に夫以下であるから、彼等に對しては寧ろ好影響を與へたりとも左して惡影響ではない樣である。

以上は主として日本人に使用される華工に就いてであるが、支那人を雇主とするものは雇主自身が銀安による影響を相當に受けてゐる結果、使用者に對する銀拂賃銀も一般に增給を見てゐない模樣であるから夫等は物價騰貴丈惡影響を蒙つた事となるのである。

尙車夫及馬車夫に對しては公定料金の引下げはまだ行はれてゐないが、相互契約に依り二割乃至三割を引下げてゐる現狀であるから大體第一例に於けるが如く左したる惡影響ではない。

十五、土木建築界

銀安に財界不況も手傳つて本年の土木建築界は頗る不振である。今本年上半期大連市内建築許可數を前年に比較するに、（關東廳土木課出張所調査、大連新聞七月二十日所載）

	本年	前年
棟數	九七九	七九五
坪數	三二、五八九	四五、三八八
工費	三、八三五、〇九〇	八、一一三、七四七

即ち棟數に於てこそ百八十四の增加であるが、坪數は千三百減、工費は四百三十八萬圓減である。右は小住宅の建築增を意味し、大工事減少、即ち建築界不振を意味すると見て良い。而して此儘に推移するならば昨年の千二百萬圓に比し半額に達せぬでもないかと見られてゐる。

十六、株界

大連五品市場に於ける本年上半期の株式出來高を前年の夫に比較すれば左の如く十萬株の減少である、（定期現物共）（大連商工月報に依る）

本年上半期	前年同期
二五一、三二〇	三五一、〇〇〇

即ち前年同期に比すれば甚しき不振であるが、之は主として五品取引所の整理及財界不振に原因する所多く銀安に依る影響は殆んどないものと見られる。

十七、魚菜市場

大連の青果市場及魚市場に於て驛賣に供される貨物の的七割は沿線よりの需要に供されるのであるが、銀安の結果奥地よりの需要減少し、本年一月より七月末までの賣買高を昨年の夫に比すれば左の如く何れも減少してゐる。

	本年	前年
青果	一、一五四、五〇二圓	一、三七〇、六八六
魚	一、三七六、三〇四圓	一、七八一、七二三

而して右の傾向は茲當分立直りそうもないと言はれてゐる。

三、結　言

經濟上の各種の現象相互の間には各々因果の關係が存するが其の關係は錯雜混淆して明瞭を缺く事多く或は直接に或は間接に果は因をなし、因は又他の因の果たるといふ如く、捕捉せんとする者をして迷路に立たしむるものである重要なる經濟學上の理論の多くが未だ定說なくして混沌たるの現狀にあるは此間の消息を如實に物語るものである。本文に於て銀價の暴落の原因を尋ね又之が滿洲財界に對する影響如何を簡單に取纒めて記述せんとするに當り右に述べたる所を更に痛感するものである。中には比較的明確なる因果の關係を發見するが、多くは銀價暴落期間に於ける各般の經濟現象の變化を瞥見したるに過ぎず、必ずしも銀價低落との因果關係明かに存する譯ではない。

銀の前途觀をなす如きは愚者に非れば狂者なりと稱せられる、敢て此の問題に深入りするのは本旨ではないが、銀が數百年來の趨勢として低落の大勢にあることは、知らねばならぬ事であると共に相場は波を描いて進み、理論的或は實勢的到達點へ一直線を描いて進むものではない。暴落には落ち過ぎ暴騰には昇り過ぎあることを知らねばならぬ銀が低落の大勢にあつたことは事實であらうが今の價値が相當なものであるかは疑問がある。銀の生產原價に膠着して生產原價割れを唯一の買目標とするが如きは銀相場の實勢を知らざるものであるが、又之を無視して銀價の續落を夢見る如きも獨斷たるを免れぬ。

兎もあれ銀は落着くか更に下落するか、或は恢復に向ふかの何れかでなければならぬ、之等の場合一般財界に如何なる影響を及ぼすべきか。更らに下落を續けるものとせば影響は益々深酷を加へるであらう、然し米國、墨西哥に於ける或る程度の產銀中止が傳へられる、印度其他の處分銀としても安値には賣控へられるであらうから之以上の續落は無理が多いであらう。

銀が此頃の値頃で持合ふ場合は其の影響如何、理論上から見れば銀下落の惡影響は其の下落の程度に於て起るべきもので低位乍ら現狀にて永く持合ふものとせば銀下落の從來の影響が出盡せば其後は左したる障碍を財界に與へない筈である。日本の對支貿易にしても滿鐵の營業成績についても同樣の事が考へられる。

銀價の恢復が實現するとせば其の程度に應じて滿洲支那印度從つて日本等の景氣に好影響あるべきは考へ得る處である。然し高値には處分銀の賣物出づべく暴落前迄の恢復卽ち弗圓バーは極めて望みの少い事と見ねばならぬ。

銀價低落の對策は略銀價の持合乃至僅少の恢復を豫想して建てられてゐるものの如くである。又斯くすることが常識的たることは何人も否定出來ぬ處であらう。

附錄　C、鈔票と金票に關する勅令集

横濱正金銀行ノ關東州及清國(支那)ニ於ケル銀行券發行ニ關スル勅令集

(一)明治卅九年九月ノ勅令二百四十七號

朕横濱正金銀行ノ關東州及清國ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十九年九月十四日

外務大臣　西園寺公望

大藏大臣　阪谷芳郎

第一條　横濱正金銀行ノ關東州及清國ニ於ケル銀行券ノ發行ハ外務大臣及大藏大臣ノ監督ニ屬ス

第二條　横濱正金銀行ハ前條銀行券ノ發行店及樣式種類ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　横濱正金銀行ノ銀行券ハ銀ヲ以テ引換フヘシ

第四條　横濱正金銀行ハ銀行券ノ發行高ニ對シ同額ノ準備ヲ保有スヘシ

前項準備ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

第五條　横濱正金銀行ノ銀行券ハ關東州及清國ニ於テ公私一切ノ取引ニ無制限ニ通用スルモノトス

第六條　横濱正金銀行銀行券ノ發行ニ關シテハ主務大臣ハ特ニ監理官ヲ置キ之カ監督ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ横濱正金銀行支店出張所ノ金庫、券書庫、帳簿其他ノ文書ヲ檢査シ又ハ諸般ノ景況及計算ニ關スル報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治卅九年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前横濱正金銀行カ關東州及清國ニ於テ發行シタル銀行券ハ本令ニ依リ發行シタルモノト看做ス

(二)明治四十三年十月勅令四百十九號

朕明治三十九年勅令第二百四十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年十月　日

内閣總理大臣　侯爵　桂　太郎

兼大藏大臣

外務大臣　伯爵　小村壽太郎

勅令第四百十九號

明治三十九年年勅令第二百四十七號中左ノ通リ改正ス

第一條中「外務大臣」ヲ「内閣總理大臣、外務大臣」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(三)大正二年七月勅令二百五十號

朕明治三十九年勅令第二百四十七號中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

大正二年七月二日

内閣總理大臣　伯爵　山本權兵衛
内務大臣　男爵　牧野伸顯
大藏大臣　男爵　高橋是清

勅令二百五十號

明治三十九年勅令第二百四十七號中左ノ通リ改正ス

第一條中「内閣總理大臣」ヲ削ル

第三條ニ左ノ二項ヲ加フ

横濱正金銀行ハ金貨又ハ日本銀行兌換券ヲ以テ引換フヘキ銀行券ヲ五年限リ關東州ニ於テ發行スルコトヲ得

前項ノ期間ハ主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

(四)大正六年十一月二十七日勅令百十八號

朕明治三十九年勅令第二百四十七號横濱正金銀行ノ關東州及清國ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル件中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

大正六年十一月二十七日

内閣總理大臣　伯爵　寺内正毅
外務大臣　法學博士　子爵　本野一郎
大藏大臣　勝田主計

勅令第百十八號

明治三十九年勅令第二百四十七號中左ノ通リ改正ス

第一條及第五條中「關東州及清國」ヲ「支那」ニ改ム

第三條第二項及第三項竝第六條ヲ削ル

(參考)

朕關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル朝鮮銀行券ノ通用ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

大正六年十一月二十七日

内閣總理大臣　伯爵　寺内正毅
外務大臣　法學博士　子爵　本野一郎
大藏大臣　勝田主計

勅令二百十七號

朝鮮銀行ノ發行スル銀行券ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テ公私一切ノ取引ニ無制限ニ通用スルモノトス

附則

本令ハ大正六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年十一月廿五日印刷
昭和五年十一月三十日發行

定價金壹圓五拾錢

編輯兼發行人　南滿洲鐵道株式會社總務部調査課　佐田弘治郎
印刷人　大連市吉野町三十四番地　高瀨又五郎
印刷所　大連市吉野町三十四番地　松浦屋印刷所
發行所　南滿洲鐵道株式會社
取次販賣所　大連市紀伊町九十一番地　社團法人　中日文化協會

大連を中心として觀たる

銀市場と銀相場の研究

補遺

滿鐵調査課

滿鐵調査資料第百四十二編

はしがき

本稿を印刷に附した後二―三當業者に意見を求めたところ誤謬や理論と實際の相違につき教へらるゝところが少くなかつた上に、本稿上梓直後上海、内地、朝鮮方面に出張して不審の點につき多數の銀行業者に訊した結果、日米爲替の現送點や其他の點に就ても補正を必要とする箇所あるを發見し、又文意盡さゞる點も二三ありたるを以て、茲に正誤表に代へて補遺なる表題の下に誤謬を少しでも減ずる事とした。忽卒補正の筆を採りたるは問題の重要性と責任の重きを感じたからである。されど此方面の研究たる、專門家も尙ほ甚だ難しとする處である。筆者が萬全を保する事は勿論出事ない。識者の叱正を得ば幸甚。

第一章　大連銀市場

第一節　大連の錢鈔取引所

上場物件と取引の種類及方法

1 大連取引所錢鈔部の認めた現物取引中鈔票對小洋錢の引取受渡に就ては支那小銀貨の品質が低下し不統一なる現狀に在つては、其受渡に關與することは尠らざる危險を伴ふを以て、錢鈔信託はこれを賣買當事者相互間の行爲に委ねて居る。從つて銀對小洋錢の現物賣買當事者と信託との間には手數料の問題は生じない。之等の事情から此の鈔票對小洋錢の取引を公認の取引でない樣に考へる向きもあるが之は誤りである。取引所に於ては公定相場及取引出

來高を發表するに見ても公認の取引であることゝ明かである。なほ錢鈔取引所が市場内に於て支那人をして任意に取引せしめつゝある相對賣買には滙申(鈔票對上海兩)滙烟(鈔票對芝罘兩)大洋錢(大洋錢對鈔票)の三者がある。之等の任意取引に對しても取引所は黑板を貸與し出來値を發表せしめつゝある。尙金對小洋錢の相場が新聞紙上等に發表されるが之は銀對金相場と銀對小洋錢相場とによる換算相場に過ぎず、實際取引ありたる譯ではない。(七頁五行)

2 鈔票對金票の現物取引の受渡は當日又は翌日正午迄に錢鈔信託の手を介して正隆銀行に於て行はるゝ樣記述したが(八頁六行目)之は誤で、事實は錢鈔信託に於て行はれて居る。卽ち錢鈔信託は正隆銀行に金銀口座を有するを以て買方よりは金小切手を提出せしめこれと引換へに信託振出正隆銀行宛の銀小切手を交付し、一方賣方よりは銀小切手を受取つて信託振出正隆銀行宛の金小切手を交付して受渡を仲介するのである。尤も賣買當事者は金銀小切手に代ふるに金票又は鈔票を錢鈔信託に提出しても差支へない譯である。尙先物の場合は正隆銀行に於て受渡を取扱ふのは事實である。

乘換と委託手數料

1 十二頁八行下より第三—二字目及九行目中程の「銀行」は Operator と改むる方が妥當であろう。銀行が金資銀資の調節を出合の圓滑を缺ぐ錢鈔市場に於ける乘換に求むることは實際問題として不自然である。說明の爲めの設例ではあるが之を訂正した方がよい。

2 既存の殘玉なきに拘らず現物對先物、先物近期對先物遠期との間に行はるゝ乘換は獨り金利關係のみに止まる譯ではない。現先、近遠間の値鞘及其他の原因によつても行はれるであらう。(一三頁三行目)

錢鈔市場の手筋

1 十六頁第一行目「而して」の次に「滙申取引は」と入れ二行目以後を「つあり、而かも全然支那人間に限らるゝ現狀である。而して兩資金を有せざる滙申の賣手は結局上海に於ける支拂に充當するため、上海に於て兩資金を調達するか又は大連正金銀行等より上海向を買はざるを得ない」と訂正する。

2 銀行筋の依賴を受けて錢鈔市場に活躍する取引人の中、儲蓄公司と正金銀行との關係は最近薄弱となりつゝありと云ふ。又山田の如きは銀行筋との關係よりも寧ろマバラ卽ち投機筋と看るべきである。(十六頁六行目)

3 三井、三菱、日淸の如きは一應買方の重鎭として活躍する樣に思惟せらるゝも彼等が相場の前途を見極めて賣に出づる場合も亦屢々ある。(一六頁一一行目)

第二節 鈔票の本質

1 本節に於ては鈔票が慣習上爲替劵に外ならぬ旨を力說したけれども決して鈔票の圓銀兌換劵たるの本質を否定した譯ではない。之は法文の解譯上からも劵面の文言からも之には疑點は無い。鈔票裏面の英文中 Local Currency なる字を以て金票、小洋錢等にも及ぶと解する如きは甚しき曲解である。且つ英文は單なる意譯にすぎず正文は表面の漢字であるから之れによつて解譯すべきである。或る銀行業者の意見に據れば正金銀行大連支店の保有する圓銀

は三百萬圓に達するであろうと云ふ。將來正金銀行が兌換に對する態度を變更するに於ては慣習上も兌換券たる實を擧げること、なり本節の說明は多くの改訂を加ふる必要あること、なるであらう。

2 二十二頁第六行「但し……」以下第七行第八行全部を削る。

第三節　大連上海間の銀相場事情

1 勿論は勿論の誤植（三二頁末行）

2 本邦金解禁當日京城朝鮮銀行本店に集つた兌換請求者は新聞紙に傳へらるゝ如き多數に上らず豫期以上に靜寂を極めたと確聞する。（二七頁一二行目）

3 朝鮮銀行本店は滿洲方面より流入する金塊を買取つた場合には直ちに大阪方面に現送し本店には金塊を保管せざる方針なりと稱せらるゝも眞僞不明である。

第四節　大連商人と送金制限問題

1 大連商人が大連銀安に乘じて大連上海間に策動する場合には先づ滙申の買に對して當日鈔票を滙申の賣人に交付せねばならず上海で兩貨を受取るのは翌日である。上海の銀行は兩貨を受入れて後始めて大連支店に金票支拂方を電告するから大連で金票を受取るのは二日後である。卽ち全部の取引を結了するには都合三日間を要しこの間二日間の金利を損すること、なる。（三二頁一行目六行目迄の再說）

2 滙申手數料は當業者間の競爭及其他の原因により鈔票一萬圓に付銀七圓より現在五圓に引下げられて居ると云ふ。（三二頁一四行）

3 上海市場に於ける爲替仲買料は現在輸出入爲替に於て $\frac{1}{16}$％銀行間及投機業者の夫れは $\frac{1}{32}$％であると云ふ。本文には前者を $\frac{1}{8}$％後者を $\frac{1}{16}$％とせるを以て訂正す。（三三頁二行目）

4 三十五頁終より二行目の「抱込む資金の Cover」とあるを「抱込む資金の處分」と訂正す。

5 三十六頁に於て、今日大連は上海に比べて却つて銀安の狀態にありと述べたが、右は執筆當時なる一九三〇年六月頃の事情を表現せるものにして其後事態は更に變化して居る。

6 三七頁六行及七行目は事實として述べたものでなく理論上斯くなるといふに過ぎぬ。資金取寄せの手數料は爲替相場を加減せねばならぬ程の多額には上らない。

第五節　特產物資金としての鈔票

1 三十八頁十二行及十三行目の「三ヶ月先物（渡）……」とあるを「五箇月先物（渡）……」と訂正す。

2 三十九頁第二行目の「銀一萬圓に付金二圓……」を「銀一萬圓に付一圓……」と訂正す。

3 四十頁第四行中より「から利付手形と云ふものは有り得ない」と云ふ文言を削る。大連の通貨が鈔票のみなる場合大連の輸出商が振出す日本宛の手形が悉く金手形のみならば利付手形と云ふものは有り得ない道理であるが大連に

は鈔票の外に金票が流通して居るから實際問題としては利付手形が有り得るのである。

4 從來大連倫敦向輸出爲替に就ては香上銀行の方が正金銀行に比し圓安賣り磅高買ひをすると謂はれて居たが本邦金解禁後は正金の相場が却つて香上銀行の夫れよりも輸出業者にとつて有利な場合が多い。（四〇頁一三行）

5 四一頁九行目、慣習上のことを謂つたのである。

6 四一頁一四行目、鈔票總發行高に相當する兩貨が上海にあるといふのではない。大連支店には相當多額の圓銀貨が準備されてゐる。

第六節　滙申市場

1 四十三頁第十行中に「投機取引が二日間……」とあるを「爲替取引が二日間……」と訂正す。尙上海大連間の爲替取引が二日間とか、三日間とか云ふ如き短期間に完了さる、組織になつて居るため、滙申が直物取引になつたのか或は滙申が直物取引なるが故に上海大連間の爲替取引が短期間に完了さる、組織になつたのか、卽ち孰れが因たり孰れが果たるかに就ては異見が存する。

2 正金銀行は上海筋や南支筋、官銀號筋等と並んで滙申市場に於ける最大の Operator であり、從つて本節に述べた仕手關係中の一手筋として掲ぐる程の重要性を有して居る。三井銀行の如きはむしろ上海筋に包含せらるべき性質のもの、如くにも考へられる。（四三頁末行）

第三章　世界の主要銀市場

第四節　上海爲替市場

金業交易所に於る標金取引

（一二一頁）

1 日本金貨一圓中に含有さる、金の純分は横濱正金銀行に於ては 11.57414 Grain として計算してゐる（大正十三年調）。これによれば標金と日本金貨との平價は 478.003412 にあらずして 478.006716 となる。尙我國の貨幣法及度量衡法により算出せば一圓の純分は 11.574074Grain となる。要するに 478.003412 の平價は錢以下正確ではない。（一二三頁四行目）

2 一二五頁の標金の神戸流出點 475.62528は右正金の計算によれば475.62857となる。

3 一二五頁日本金貨の上海流入點479.6525 は 479.655839となる。

4 一二六頁二行目の479.6525 は 479.6558となる。

5 一二六頁六行目の475.62528 は 475.62857となる。

6 一二六頁算式中に於ける一匁の等量57.8711 Grain は正金銀行の計算によれば57.8707 Grain となる。日本度量衡法によれば57.87037 Grain.エンサイクロペデアブリタニカによれば57.8713 Grain である。正金銀行の計算に從ひ上海金塊の日本流入點に關する恒數を算出すれば 1.0408135 は 1.040806 とすべきである。

7本邦金解禁後一九三〇年十一月末迄に上海より日本に仕向けられた金塊は約金四千萬圓、米國に流出した額は米貨の四千萬弗に達する見込みである。

標金相場と香上銀行建値との關係　（一二八頁）

1一九三〇年十二月十六日現在の香上建値は標金相場に比べて最高四十八兩五錢最低二十七兩八錢方上鞘である。同日午前九時半の香上銀行日本向賣相場は141¾兩標金相場換算額は681.6兩なるに對し同時刻に於ける標金實際相場は639兩にして香上銀行相場に比べて四十二兩六錢方下鞘を示して居る。

2最近爲替と標金とが鞘寄せした理由は上海市場に於ける金塊が流出して現物の在荷が尠くなつた爲めである。

標金定期乘換取引と金塊輸出禁止令　（一三六頁）

1金業交易所に於ては毎月十六日に至れば翌々月渡しの新甫の立會が開始され、それより滿一ケ月後なる翌月十六日より乘換を開始し月末迄に乘換を終り、翌々月一日より月末迄を受渡の期間と定めて居る。この受渡は普通賣方のOption を以て行はれる。

2最近（一九三〇年十一月末）Cash gold bar は標金定期相場に比べて十二兩方上鞘であるが、國民政府が金の輸出を禁止した當初は大手筋の賣出動の結果Cash gold barの方が定期よりも却つて割安を告げたこともある。

3恰赤とは足赤卽ち純金を意味するけれども實際の品位は九九六乃至九九七である。從つて恰赤の相場は九七八位を標準とする定期相場に比べて品位の格差丈け割高なるべき道理である。斯の如く金塊の品質は千差萬別であるから定期の受渡しに際してはいち〳〵品質鑑定の必要が生ずる。

本邦金解禁後に於ける日米爲替と上海市場　（一四五頁）

1一四八頁第三行目「…斷念せざるに立到…」とあるを「…斷念せざるを得ざるに立到…」と訂正す。

2一四九頁日本一圓金貨の含有純分は横濱正金銀行の計算によれば 11.57414 Grain に當るから、日米爲替の法定平價は49.845564 弗となる（本文には夫々11.57422 Grain 及49.8459となり）從つて日本金貨の對米流出點も49.3986又は49.5334となる（本文には49.39904 及 49.5387となり）

尙エンサイクロペヂアブリタニカによれば1Gramme=15.4323564 Grainであるから一圓の純分は11.5742673Grainとなる。これによれば日米爲替の法定平價は $ 49.846112 となる。之が最も正確なりと思はれる。

3專門家の計算による日米爲替の現送點は弗金貨を現送する場合には 49¼.日本金貨を現送する場合には49½ 乃至 49 9/16 の見當であつて、49¼ と見るのが最も妥當であろうと云ふ。一九二四年片岡藏相時代行はれた現送は弗金貨であつて當時の經驗より算出された現送點は次の如くである。

Charges for Gold Shipment from Japan to America.

Charges in Japan.

Box & Packing Charges etc. ½%……0.05%

Freight @ ½%（現送の高により運賃率を異にすることあり）……0.50%

Ins. @ $\frac{1}{8}$% on insured amount (1+20%) 0.15%

Charges in America $\frac{3}{10000}$ 0.03%

0.73%

Interest @ 6% (假定) for 30 days 0.49315%

1.22315%

Rate on America in Japan based on gold shipment from Japan to America

Gold Dollar X = Gold yen 100

Gold yen 1 = 11.57414 Pure gold grains

23.22 Pure gold grains=Gold Dollar 1

101.22315 Plus charges= 100

$$\therefore X = \frac{11.57414 \times 100 \times 100}{23.22 \times 101.22315}$$

$$= 49.243 \text{ (約}49\tfrac{1}{4}\text{)} \cdots\cdots (1)$$

或は

$$\text{Japan America mint par} = \frac{11.57414}{23.22} \times 100 = 49.845564$$

$$49.845564 \div (1+0.0122315) = 49.243 \cdots\cdots (2)$$

註　上述算式は外割計算なるが內割計算によれば次の如くである。

Gold Dollar X=Gold yen 100

Gold yen 1 =11.57414 Pure gold grains

23.22 Pure gold grains=Gold Dollar 1

100 =100—1.22315

X =49.2358 (約$49\frac{1}{4}$)……(3)

或は

Mint par $49.845564 \times (1-0.0122315) = 49.2358 \cdots\cdots (4)$

又更に米國より日本への現送點を求むれば次の如くである

Mint par $49.845564 \times (1+0.0122315) = 50.45525 \cdots\cdots (5)$

$49.845564 \div (1-0.0122315) = 50.4628 \cdots\cdots (6)$

4 本邦金解禁以來十一月末迄に滿洲方面より朝鮮を通過して內地に買却された金塊は二千萬圓の巨額に上つて居る。(單位及紙金)

1930年1月	61,286
2月	115,383
3月	225,205
4月	166,111
5月	259,570
6月	841,384
7月	881,690
8月	410,305
9月	425,753
10月	416,367
11月	389,972
合　計	4,193,026

終